

交渉情報	NO.46	日本郵便(株)信越支社 郵便・物流オペレーション部
JP労組 信越地方本部	2022年10月27日	添付資料:98枚

2022年度りんごゆうパック引受に対応する増強便の設定について

日本郵便(株)信越支社 郵便・物流オペレーション部は、本日(10月27日)「2022年度りんごゆうパック引受に対応する増強便の設定」について、地方本部に説明してきました。

標記概要は、長野県各地域における「りんごゆうパック」の取扱物数増加に対応するため、臨時運送施設を設定し、円滑かつ効率的な運送を確保するものです。

「別紙1」では、「りんごオペレーション施設一覧」が示されています。今年度は、分室7ヶ所と集積所7ヶ所を開設し、各地域のりんごゆうパックの対応にあたるとしています。

なお、今年度千曲分室の借入れができないため、信越支社南分館を使用するとし、八幡倉庫は空パレットの保管で使用するとしています。

また、梓川集積所(トラックへの積み下ろし関係)、中野分室、川中島集積所および朝日集積所について、昨年から変更(住所移転)となっています。

「別紙2」では、「年末期差立(りんご)オペレーション作業内容」を示しており、1. 地域区分拠点(分室)の設置、2. 集積所等へのゆうパック集約、3. 集積所等における事前区分と輸送、4. 運送便の設定と役割、5. 運送便に関する遵守事項、6. 一般局及び地域区分局における航空危険物の品名確認・外装確認、7. 安全管理の徹底、8. その他について記載されています。

なお、7. 安全管理の徹底の②・③は、「年末年始業務運行推進要綱に関する要求書」の地方整理を踏まえた内容となっています。

「別紙3」では、「別紙2」4. 運送便の設定と役割について、「りんごオペレーションフロー図」が38・39地域ごとに示されています。特に38地域は、千曲分室から信越支社南分館への変更に伴い、りんごオペレーションフローが複雑になっていますので注意願います。

「別紙4」では、各分室および集積所の「ゆうパック輸送容器作成方」が示されています。

増強便のダイヤグラム等については、支社資料③を参照願います。想定以上の引受個数となった場合は分室の開設期間、運送便の延長もあり得るとしてあります。

内容の詳細については、支社資料を参照願います。

本年度の予定取扱物数は、昨年は霜被害により減少したが、今年度は増加の見込みであるとし、38 地域は 547,000 個（昨年比 113.8%）（一昨年比 89.3%）、39 地域は 232,000 個（昨年比 112.49%）（一昨年比 96.4%）を想定しているが、一昨年と比較すると大きく増えてはいないとしています。

地本からは、差出個数の増加予想および信越支社南分館使用によるオペレーションフローの複雑化などを踏まえ、りんごゆうパックを取り扱うにあたっては、空パレット置場や輸送容器の作成および区分スペースなど、昨年以上にスペースが広く必要であり、①狭いスペースでのパレットの取り回しが多くなること、②通常便に加え多くの臨時便の到着により発着が混雑すること、③りんごゆうパック差出のための来客が増えること等により、労働災害や構内での事故が懸念されることから、社員やアルバイトとお客さまの安全を第一とすることを求めました。

支社は、今年度のりんごオペレーションについては、10月14日ズームによる説明を行ったが、大幅なオペレーションフローの変更による社員等の不安払拭、安全管理への配慮および労働災害防止に努めるよう、管理者への指導を徹底するとしています。

【労使対応】 当該局における単局窓口および部会労使委員会窓口

以上